



『ぼくが、わたしが、ここにいること』

副校長：武藤 浩之

□ 昨年の聖母小だより10月号です。『よき家庭 VOL.126』に書かれていたコラムを巻頭言の話題にしました。前に立つ、間に居る、後ろに立つ、といった内容です。言葉を換えれば、背中を示す、真正面から受け止める、背中を押す、になります。つまり、子どもとの関わり方、子どもと関わる上での“立ち位置”の話でした。

□ 今年7月配付の『よき家庭 VOL.131』です。巻頭言の著者が、詩を紹介していました。「ぞうさん」「一年生になったら」「ふしぎなポケット」で知られる童謡詩人：まどみちおの詩です。ただし、五連の詩の後半部分だけでした。そこで全連を右に載せることにしました。その方が、詩の伝えようとしていることがより分かるからです。

□ 一連に、ぼくにかきながらここにいないことにはできないという言葉があります。二連はゾウ、三連はマメです。人間も大きな動物も小さな植物も、そして地球上の生きとし生けるもの全てが、かきながらここにいないことにはできない。まどみちおは、そう伝えています。それはつまり、どんな存在も唯一無二である、ということでもあります。

□ 『よき家庭 VOL.131』では、この詩につなげて聖書の一節を取り上げ、巻頭言の結びにしていました。「命を愛される主よ、あなたは存在するもの全てを愛し、いとおしまれる (知恵の書 11・26)」です。

□ 『ぼくが、わたしが、ここにいること』こそが、なににもまして素晴らしいこと。それがこの詩の主題です。子どもとの関わりの中で、あるいは子どもとの日常で、忘れてはいけないことでありましょう。

ぼくがここに

まどみちお
ぼくがここに いるとき
ほかの どんなものも
ぼくに かきながら
ここに いることは できない

もしも ゾウが ここにいるならば
そのゾウだけ

マメが いるならば
その一つの マメだけしか
ここに いることは できない

ああ このちきゅうの うえでは
こんなに だいに
まもられているのだ
どんなものが どんどころに
いるときにも

その「いること」こそが
なににも まして
すばらしいこと として

お誘い 一足をお運び下さい

あかしや祭 桜の聖母短期大学

◇ 次の日時に、桜の聖母短期大学第53回『あかしや祭』が行われます。

◇ 日時 令和元年11月3日(日) 9:30~14:30

* 同日、短期大学同窓会が第14回『チャリティバザー』を開催します。

* 時間 9:30~13:00

* 会場 マリアンホール1F (Rm.165, 166)

Sakura no Seibo All School English Festival

◇ 来月のことですが、今年も本学院特有の行事が行われます。

「Sakura no Seibo All School English Festival」です。英語の日頃の学習成果を発表する場として、5年前に始まりました。今回の小学生の発表は、英語劇(3年生)と絵本の読み聞かせ(2, 4, 6年生各代表)です。オープニングには園児(年長児)も登場する予定です。

◇ 日時 令和元年12月21日(土) 14:00~16:00 終了予定

◇ 会場 桜の聖母短期大学3階「マリアンホール」講堂
(幼小部 担当：五十嵐、武藤)

ベルマーク委員会

第2回ベルマーク作業

《日時》 11月2日(土) ★明日です!

10:00~11:30

《場所》 本校舎3F 図書室, 多目的室

《連絡》 前回の当番になっていた方で、欠席された場合は、今回または3回目の作業(2/15)に必ず参加して下さい。
・今回は、インクカートリッジ(エプソンまたキヤノン)の仕分け作業も併せて行ないます。ご家庭に使用済みのものがありましたら、お子さんに持たせて下さい。

*現在 点です。

転入児童

● 嬉しいことに、10月1日付で、転入生を迎えました。

さん

です。

● 仲間が増えました。よろしくお願いします。

『お知らせ』 & 『お願い』 & 『確認』

環境委員会

第2回資源回収

《日時》 11月2日(土) ★明日です!

7:40~9:00

《場所》 児童玄関前

《連絡》 園児、児童の登(園)校の時間帯と重なります。自家用車で搬入される場合は、くれぐれもご注意下さい。

生活指導部

● 今日から最終下校時刻が16:00になりました。

* 水曜日と土曜日の下校時刻は変わりません。

● 気温の低下に伴う着用物については次のようにお願いします。

・ マフラー、手袋…華美なものにならないように。

・ 防寒靴……………踵の高い靴やロングブーツではなく、通学に適したシンプルで機能的なものに。

登山合宿訓練報告 ~子ども達が実証したこと~

5年1組担任：佐藤 櫻子

頭の中が“学院祭”になっているのか“登山合宿訓練”になっているのかわかりません! 学院祭の準備をしているときに、5年生が笑いながら私に話してきました。その笑顔からは、二つの行事を抱えている忙しさや気持ちの余裕のなさは全く感じられませんでした。二つの行事に対して子ども達は、準備の段階から既に「楽しさ」を感じていたのです。

その姿から、“高学年としての強い思い”があるのだと感じました。実際にこの笑顔や楽しさが意味することは、今回の登山合宿訓練を通して子ども達が、しっかりと実証してくれることになりました。

一つ目は、どの班も互いに「転んだらハイタッチして励まし合おう、弱音を吐きそうになったら笑おう」等、自分たちで決めた約束を守り、脱落はもちろん、大きな怪我をすることもなく最後まで登りきったことです。

二つ目は、最後の三日目まで体調を崩すこともなく、全員が全てやりきったという生き生きした笑顔で帰校できたことです。

本当に少しずつではありますが、高学年としての成長の一端を垣間見たように思えたことは、担任として気持ちの引き締まる思いでした。



安達太良山 山頂付近にて